

1. しごと分野(令和元年度の見込み)におけるPDCA検証の状況

基本目標	しごと	地域資源を活かして育てるまちづくり			
指標名	H29	H30	R1	目標値	
新規農業就業者数【累計】	16	19	20	25人	
	64.0%	76.0%	80.0%	%	
	C	C	B	-	
市内観光客数	140.3	141.6	142	150万人	
	94.4%	94.4%	94.7%	%	
	B	B	B	-	

達成状況		H29	H30	R1
全KPIの達成状況評価（A～D）	A	1	2	2
	B	4	5	5
	C	5	4	4
	D	7	6	6
	計	17	17	17

1. 基幹産業である農林業の再生・活性化

1400年の伝統を受け継ぐ『薬草のまち宇陀』の全国発信				
指標名	H29	H30	R1	目標値
薬草を活用した商品開発品目数【累計】	20	20	23	30品目
	66.7%	66.7%	76.7%	%
	C	C	C	-
薬草生産者数【累計】	80	80	80	100人
	80.0%	80.0%	80.0%	%
	B	B	B	-
薬草のまち宇陀市の興味度（講演会参加数）	500	5,000	5,000	5,000人
	10.0%	100.0%	100.0%	%
	D	A	A	-

高原野菜等のブランド化				
指標名	H29	H30	R1	目標値
機能性表示件数【累計】	6	8	8	10件
	60.0%	80.0%	80.0%	%
	C	B	B	-
有害鳥獣被害額	6,198	10,304	10,000	8,120千円
	155.2%	37.2%	46.0%	%
	A	D	D	-

宇陀産材の普及及び森林の保全				
指標名	H29	H30	R1	目標値
木材搬出量	7,857	6,392	7,000	17150㎡
	45.8%	37.3%	40.8%	%
	D	D	D	-

2. 地域資源を活かした観光戦略

四季折々の自然をはじめとする宇陀の地域資源で観光地の魅力を創造				
指標名	H29	H30	R1	目標値
宿泊観光客数	25,500	24,582	11,000	40,000人
	63.8%	61.5%	27.5%	%
	C	C	D	-
新規商品（着地型含む）の造成数【累計】	11	14	15	20商品
	55.0%	70.0%	75.0%	%
	D	C	C	-

健幸都市宇陀ならではのスポーツツーリズムの推進				
指標名	H29	H30	R1	目標値
観光消費額	4285.3	4289.8	3885	4970百万円
	86.2%	86.3%	78.2%	%
	B	B	C	-

宇陀のおもてなし、農家レストラン・農家民宿等の支援				
指標名	H29	H30	R1	目標値
飲食店・民宿・店舗等数（新規出店数）【累計】	6	16	20	10件
	60.0%	160.0%	200.0%	%
	C	A	A	-

色彩豊かな宇陀づくり				
指標名	H29	H30	R1	目標値
観光消費額	4285.3	4289.8	3885	4970百万円
	86.2%	86.3%	78.2%	%
	B	B	C	-

3. 地場産業等への支援による仕事づくり

未来に継承したい宇陀の地場産業等への支援				
指標名	H29	H30	R1	目標値
進出企業数【累計】	1	1	1	5件
	20.0%	20.0%	20.0%	%
	D	D	D	-
市内事業所の創業件数【累計】	1	2	4	5件
	20.0%	40.0%	80.0%	%
	D	D	B	-
市内伝統産業後継者数【累計】	0	0	0	5人
	0.0%	0.0%	0.0%	%
	D	D	D	-

ICT等を活用し、宇陀の産業情報の発信や特産品等をPR販売				
指標名	H29	H30	R1	目標値
ポータルサイト利用事業所	0	0	20	60事業所
	0.0%	0.0%	33.3%	%
	D	D	D	-

＜施策方針の達成状況＞

達成状況が
より良い

- ・宇陀のおもてなし、農家レストラン・農家民宿等の支援
- ・1400年の伝統を受け継ぐ『薬草のまち宇陀』の全国発信
- ・健幸都市宇陀ならではのスポーツツーリズムの推進
- ・色彩豊かな宇陀づくり
- ・高原野菜等のブランド化

達成状況が
思わしくない

- ・未来に継承したい宇陀の地場産業等への支援
- ・四季折々の自然をはじめとする宇陀の地域資源で観光地の魅力を創造
- ・宇陀産材の普及及び森林の保全
- ・ICTを活用し、宇陀の産業情報の発信や特産品等をPR販売

2. しごと分野における総括について

■ 基幹産業である農林業の再生・活性化

＜解決すべき課題＞

- ・農業や林業のみでは生計を立てることが困難
- ・新規産業（テレワークやサテライトオフィス）の誘致の実現
- ・新規産業誘致と既存産業の振興の両輪が必要
- ・農業や林業の再生・活性化には継続的・専任的な体制で臨む必要がある

＜今後取り組んでいくべきこと＞

- ・ICTの導入による省人化・効率化や高収益化
- ・企業誘致などを通じた外部の力や発想、ノウハウの導入

○人口減少下では農業や林業における人手不足は深刻であり、省力化・高収益化や高付加価値化を模索する必要がある。そのために、企業誘致を通じて技術やノウハウ、発想を取り入れて更なる産業化（6次産業化）や他分野との連携による新たな販路の拡大などを実践していく必要がある。

○農業や林業の再生・活性化は一筋縄でいくものでなく、継続的、専任的に取り組むことができる体制が求められる。実現のためには、行政として将来展望を示し、そのための体制も併せて整備することが重要となる。

■ 地域資源を活かした観光戦略

＜解決すべき課題＞

- ・新たな観光資源の発掘・創出
- ・既存資源の磨き上げ
- ・インバウンドへの対応（看板等の多言語化）

＜今後取り組んでいくべきこと＞

- ・PR等の情報発信に留まらない、コンテンツの創出・商品化
- ・宇陀の歴史的資源を掘り起こし、文化財を活かした観光を展開

○インバウンド（特に欧米系）が体験や地域の歴史・文化に触れること目的とした観光を好むことを踏まえると、宇陀の各地域に存在する文化財を掘り起こし、磨き上げるといふ、文化財観光を「育てる戦略」が今後の観光の展開において重要な要素となる。

■ 地場産業等への支援による仕事づくり

＜解決すべき課題＞

- ・社会的なニーズが変化している中では地場産業での起業のハードルが高い
- ・施策が企図した分野での成果に直結しづらい
例）仕事づくり推進隊：食と農の分野での起業

＜今後取り組んでいくべきこと＞

- ・地場産業のPR等の側面的な支援の充実
- ・高付加価値化、ニーズにあったブランディング

○地場産業による仕事づくりを実現するためには、民間と行政が連携し、ニーズを踏まえたブランディング化などの取組が不可欠となる。

3. 今後の方向性（案）

■地場産業や農林業の振興における取組の達成状況が伸び悩んでいるため、ICT等を活用した産業情報の発信等に努める。

■観光においては歴史的な地域資源を活かし、育て上げていく戦略が重要である。また、農林業や地場産業の振興には外部のノウハウや発想を取り入れつつ、観光とも連携させながら新たな販路の拡大やブランディング化を目指す。

■地域資源を磨き上げ、育てていく戦略を展開し、産業の振興に努める。また、新たな雇用創出に向けた企業誘致の為の市街化調整区域の緩和等に努める。

1. ひと分野(令和元年度の見込み)におけるPDCA検証の状況

基本目標	ひと暮らしやすく交流が盛なまちづくり			
指標名	H29	H30	R1	目標値
合計特殊出生率	1.00	0.86	1.00	1.4
	71.4%	61.4%	71.4%	%
	C	C	C	-
人口移動（社会減）	205	321	268	150人/年
	73.2%	46.7%	56.0%	%
	C	D	D	-

達成状況		H29	H30	R1
全KPIの達成状況評価（A～D）	A	3	2	4
	B	5	8	7
	C	6	3	2
	D	4	5	5
	計	18	18	18

1. 暮らしやすい宇陀市への移住・定住の促進強化

働きながら住み続けられるまちの推進

指標名	H29	H30	R1	目標値
移住相談件数	86	111	118	120件
	71.7%	92.5%	98.3%	%
	C	B	B	-
空き家情報バンク登録件数	34	27	39	60件
	56.7%	45.0%	65.0%	%
	D	D	C	-
空き家情報バンク成約数	15	16	4	50件
	30.0%	32.0%	8.0%	%
	D	D	D	-

2. 結婚・出産・子育ての切れ目のない支援の充実

婚活支援イベント等の充実

指標名	H29	H30	R1	目標値
婚活イベント成婚者数【累計】	1	1	1	10組
	10%	10%	10%	%
	D	D	D	-

誰もが子どもを産みやすい環境の充実

指標名	H29	H30	R1	目標値
出生届け出件数	118	116	92	175件
	67.4%	66.3%	52.6%	%
	C	C	D	-

子育て支援の充実

指標名	H29	H30	R1	目標値
子育て支援センター利用者数	9,434	9,345	9,400	7,500人
	125.8%	124.6%	125.3%	%
	A	A	A	-
ファミリーサポートセンター活動件数	59	58	60	250件
	23.6%	23.2%	24.0%	%
	D	D	D	-
一時預かり利用者数	1,058	1,372	1,400	1,500人
	70.5%	91.5%	93.3%	%
	C	B	B	-

3. 子どもが心身ともに健やかに成長する教育環境の充実

夢を育む教育環境の充実

指標名	H29	H30	R1	目標値
預かり保育利用者数	5063	4790	5000	6,000人
	84.4%	79.8%	83.3%	%
	B	C	B	-
自尊心・地域とのかかわり等を肯定的に答えた児童生徒の割合「自分の良い所」（小学生）	71.4	75.3	84.8	80.2%
	89.0%	93.9%	105.7%	%
	B	B	A	-
自尊心・地域とのかかわり等を肯定的に答えた児童生徒の割合「将来の夢や目標」（小学生）	87.3	79	81.6	92.0%
	94.9%	85.9%	88.7%	%
	B	B	B	-
自尊心・地域とのかかわり等を肯定的に答えた児童生徒の割合「地域の行事参加」（小学生）	63.9	68.2	72.1	76.1%
	84.0%	89.6%	94.7%	%
	B	B	B	-
自尊心・地域とのかかわり等を肯定的に答えた児童生徒の割合「自分の良い所」（中学生）	69.7	76.2	68.3	67.3%
	103.6%	113.2%	101.5%	%
	A	A	A	-
自尊心・地域とのかかわり等を肯定的に答えた児童生徒の割合「将来の夢や目標」（中学生）	66.5	72.5	63.5	74.1%
	89.7%	97.8%	85.7%	%
	B	B	B	-
自尊心・地域とのかかわり等を肯定的に答えた児童生徒の割合「地域の行事参加」（中学生）	35.7	47	59.5	55.2%
	64.7%	85.1%	107.8%	%
	C	B	A	-

元気な子どもづくりの推進

指標名	H29	H30	R1	目標値
学校給食地産地消費率（野菜・きのこ類）	32.4	32.5	33	35%
	162.0%	92.9%	94.3%	%
	A	B	B	-

＜施策方針の達成状況＞

達成状況が
より良い

- ・夢を育む教育環境の充実
- ・子育て支援の充実
- ・元気な子どもづくり推進

達成状況が
思わしくない

- ・働きながら住み続けられるまちの推進
- ・誰もが子どもを産みやすい環境の充実
- ・婚活支援イベント等の充実

2. ひと分野における総括について

■ 暮らしやすい宇陀市への移住・定住の促進

＜解決すべき課題＞

- ・空き家の増加・利活用の障害（相続等）の解決
- ・働く場所の確保
- ・交通の不便さ（観光ではなく生活交通）
- ・買い物ができない・時間がかかる
- ・若者世代に選ばれる魅力が少ない
- ・定住しない世帯・世代が増加している

＜今後取り組んでいくべきこと＞

- ・空き家の積極的な活用と利活用の促進
- ・省人化・効率化や高収益化での新規就農者の獲得
- ・新規産業（サテライトオフィスなど）の誘致
- ・デマンドやコミュニティバスといった交通手段の拡充
- ・公共交通との兼ね合いの中で可能な方策を検討
- ・古民家という資源の活用と活用支援の充実
- ・減少する人口に見合ったまちづくりの推進
- ・価値観や地域選択の基準が変容することを踏まえた施策の検討

○企業や工場を誘致するだけでは、人口の定住は難しい時代になりつつある。一方で、子どもの教育環境を理由に市外から転入する世代も見られるようになってきており、これまでの「安定的な収入」以外に、子どもの教育環境や田舎暮らしの魅力といった要素も地域選択の理由となるように変化している。

○人口が減少する中においても、活力あるまちづくりを実現するための方策が必要。また、限られた財源を人口規模を考慮しつつ、有効的に投資していく視点を持つ必要もある。

■ 結婚・出産・子育ての切れ目ない支援の充実

＜解決すべき課題＞

- ・教育環境の充実

＜今後取り組んでいくべきこと＞

- ・出生数減少を見越した学級運営・学級整備の検討

■ 子どもが心身ともに健やかに成長する教育環境の充実

＜解決すべき課題＞

- ・子どもや保護者が安心できる教育環境の構築
- ・宇陀市独自の教育カリキュラムの提供

＜今後取り組んでいくべきこと＞

- ・地域コミュニティを含む教育環境づくり
- ・他市に先駆けたプログラミング教育の推進

○子育て世代は子どもの教育環境（地域コミュニティ含む）を重視しており、学生数が少なくなる中では、学級の統合など、様々な検討も必要。また、他市に先駆けた教育カリキュラムの導入を積極的に推進し、魅力的な宇陀市独自の教育環境づくりが引き続き重要。

3. 今後の方向性（案）

■定住に向けては、安定的な収入の確保が必要なことから、ベツタウンとしての可能性を探るとともに、産業振興や雇用創出とも連携し、移住定住の促進を図る。

■出生数の増加につながる施策の達成率が思わしくないことも踏まえ、子育て環境の充実を維持する。また、出生数増加に向けた施策の展開に注力することで、子どもを出産する世代や働く世代の定着に向けた施策を展開する。

1. まち分野(令和元年度の見込み)におけるPDCA検証の状況

基本目標	まち 地域が連携した安心・安全なまちづくり			
指標名	H29	H30	R1	目標値
地域づくり取組件数	100	100	100	100件
	100.0%	100.0%	100.0%	%
	A	A	A	－
健康寿命県内順位（男性）	27	26	26	1位
	-23.8%	-19.0%	-19.0%	%
	D	D	D	－
健康寿命県内順位（女性）	34	30	30	1位
	-22.2%	-7.4%	-7.4%	%
	D	D	D	－

達成状況		H29	H30	R1
全KPIの達成状況評価（A～D）	A	2	3	4
	B	2	3	2
	C	4	2	3
	D	6	5	4
	計	14	13	13

1. 地域連携の強化				
市民が主役の地域づくり・まちづくりによる地域連携の強化				
指標名	H29	H30	R1	目標値
高齢者見守り隊登録数	45	57	64	100自治会
	45.0%	57.0%	64.0%	%
	D	D	C	－
ウェルネスシニア健康学校卒業生【累計】	92	138	188	120人
	76.7%	115.0%	156.7%	%
	C	A	A	－
自主防災組織の結成率	74	74	75	100%
	74.4%	74.4%	75.0%	%
	C	C	C	－

2. 健幸都市ウェルネスシティ宇陀市の実現				
健幸を目指したウェルネスシティの推進				
指標名	H29	H30	R1	目標値
特定健康診査受診率	31.6	31.4	31.7	60%
	52.5%	52.3%	52.8%	%
	D	D	D	－
介護保険サービスにおける居宅サービスの給付割合	32.3	32.5	32.5	40%
	80.8%	81.3%	81.3%	%
	B	B	B	－
医療介護あんしんセンター認知度	34.6	－	－	60%
	57.7%	－	－	%
	D	X	X	－
訪問診察認知度	－	－	－	70%
	－	－	－	%
	X	X	X	－
認知症に発症してから6ヶ月以内に相談や受診する割合	－	－	－	30%
	－	－	－	%
	X	X	X	－
地域ぐるみで週1回以上運動を実施する箇所	71	95	110	60ヶ所
	118.3%	158.3%	183.3%	%
	A	A	A	－

3. 誰もが住み良いコンパクトなまちづくりの実現				
小さな拠点づくり・地域公共交通の整備				
指標名	H29	H30	R1	目標値
榛原駅周辺事業所の年間売上高	2	2	2	2.6億円
	76.9%	76.9%	76.9%	%
	C	C	C	－
重伝建地区（宇陀松山）訪問客数	34.1	30.4	31	35万人/年
	97.4%	86.9%	88.6%	%
	B	B	B	－
室生寺周辺訪問客数	15.3	15	16	30万人/年
	51.0%	50.0%	53.3%	%
	D	D	D	－
「奈良カエデの郷ひらら」周辺訪問客数	3.7	4.6	5	5万人/年
	74.0%	92.0%	100.0%	%
	C	B	A	－

＜施策方針の達成状況＞

達成状況が
より良い

達成状況が
思わしくない

- ・市民が主役の地域づくり・まちづくりによる地域連携の強化
- ・健幸を目指したウェルネスシティの推進
- ・小さな拠点づくりの推進

2. まち分野における総括について

■ 地域連携の強化

＜解決すべき課題＞

- ・高齢者見守り隊の登録数が伸び悩んでいる
- ・地域を支える団体の担い手不足

＜今後取り組んでいくべきこと＞

- ・自治会やまち協をはじめとした多様な団体による地域づくりの実現
- ・団体間での連携による担い手不足の補い合い

■ 健幸都市ウェルネスシティ宇陀市の実現

＜解決すべき課題＞

- ・健康寿命の延伸
- ・高齢者の就業や地域への参画

＜今後取り組んでいくべきこと＞

- ・継続的な健康づくりイベント（ウォーキング等）の実施

■ 誰もが住み良いコンパクトなまちづくりの実現

＜解決すべき課題＞

- ・榛原駅前における空き店舗の増加
- ・榛原駅前で核となる施設・機能の不足
- ・宇陀松山地区における周遊ルートの未整備
- ・菟田野地区の旧校舎の維持管理と周辺整備
- ・室生地区周辺の案内の不足
- ・各地域の（特に女性への）アピール不足
- ・地域公共交通の維持

＜今後取り組んでいくべきこと＞

- ・各地域における整備・機能強化を目指した基本計画を令和元年に策定（榛原地区を除く）
- ・子どもが親や祖父母を連れ出す仕掛けづくりの実現
- ・デマンドやコミュニティバスといった交通手段の拡充

○地域連携の強化の基盤となる様々な団体においても高齢化の影響が及んでおり、このままでは将来的に、活動を継続していくことが困難になる可能性がある。

○少子高齢化・人口減少下においては、まちづくりと（高齢者の）健康づくり活動、地域を支える団体の相互連携、または、補い合いが重要となる。

○その実現のために、健康づくりと拠点づくりとを連携させることで魅力的なイベント活動を作り上げ、さらに、その活動を地域を支える団体とも連携して実施することで、一過性のイベントとせず、常時の展開を目指すという方法などが考えられる。

3. 今後の方向性(案)

■人口が減少する中でも活気を維持するために、健幸都市ウェルネスシティの取組等により、健康寿命の延伸と高齢者の孤立を防ぐ地域づくりを目指す。

■まちづくり協議会や自治会を中心に、地域の連携と地域の課題解決を図り、市民が主役の地域づくり・まちづくりを目指す。